

# 中学生に選挙啓発を実施しました

12月9日、五霞中学校の協力の下、主権者教育の一環として、生徒に対する選挙啓発を実施しました。

選挙啓発は、講話及び投票体験で構成し、投票体験においては、中学校の次年度の生徒会役員を決めるための選挙を兼ねて実施しました。

## 講話「中学生から投票に備える私たちと選挙」

国民による選挙の意義と大切さを伝えるため、五霞町選挙管理委員会事務局の書記が講師となり、全学年を対象に講話を行いました。

公職選挙法の改正による選挙年齢の引下げを背景に、主権者教育は国を挙げて一層の推進が図られています。

今回の講話を通じて、生徒の皆さんに、将来、政治に参画する意識が定着することを願っています。



## 立候補者の個人演説

1、2年生で合わせて13人の立

候補者がいました。

立候補者は、それぞれ個性的な選挙ポスターを作成し、校内の掲示場に貼り出すなどの選挙運動を事前に行っていました。

個人演説では、学校社会を「こうしたい」という自身のあふれる思いを言葉にし、難しい演説を力強く、また、立候補者としての活動を立派にやり遂げました。



## 実際の選挙制度に準じた投票

3年生には、18歳で選挙権が与えられることに備えて、実際の選挙における投票のイメージをつかんでもらうために、町で使用する投票箱、投票記載台及び投票用紙を使用し、本番さながらの形式で投票をしてもらいました。



また、五霞町選挙管理委員会の委員は、投票管理者及び投票立会人として選挙に立ち会い、投票を終えた生徒たちに、選挙啓発品を手渡しながら一言を添えるなどして、更に選挙への理解を求める活動を行いました。投票を終えた生徒たちは、声をそろえて「緊張した。」と話していました。また、先生方からは、「学校では、公民の授業で『選挙』について教えているので、生徒たちが実際に体験できて良かった。」との感想を頂きました。

## 投票率の現状と主権者教育

現在の選挙全般における投票率を年代別に見ると、20歳代の投票率の低さが目立ち、若年層ほど投票率が低い傾向にあります（ただし、18歳及び19歳の投票率は比較的、高くなっています）。このことから、若者の政治に対する意見は、現在の社会に反映しにくい状況とも言える状況です。

これを打開し、バランスのとれた政治を展開するために、文部科学省は、総務省、明るい選挙推進協会等と連携し、青少年の健全育成の分野で主権者教育を推進しています。

主権者教育とは、若者が、社会問題について「知り、考え、意見を持ち、論じ、決める」ことを学んでいく教育です。

町としても、3年に1度、中学生議会をこれまで開催してきましたが、今回、新たな取組として、五霞中学校との協同により、生徒会役員選挙を兼ねた選挙啓発を実施することができました。

五霞中学校を始め、御協力を頂いた方々に感謝を申し上げます。